

令和5年度

府中市教育委員会点検・評価報告書

【令和4年度事業対象】



アニメーター 安藤雅司氏による

原画 《タイトル》

9年間の学習成長

～1年ごとの満喫～

府中市教育委員会

目 次

I 点検・評価の概要

- i 点検・評価の実施について P 2
- ii 府中市教育委員会における点検・評価の取組について P 3 ~ 4

II 教育委員会の活動状況

- i 教育委員について P 5
- ii 教育委員会会議の開催状況について P 6 ~ 7

III 事務事業の点検・評価の結果

- [結果一覧表] P 8
- i 教育政策課関係 P 9 ~ 14
- ii 学校教育課関係 P15 ~ 22
- iii 外部有識者による評価 P23 ~ 24
- iv まとめ P25

I 点検・評価の概要

i 点検・評価の実施について

平成 19 年 6 月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、すべての教育委員会においては、その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表することが義務付けられた。

また、点検・評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとされた。

●地方教育行政の組織及び運営に関する法律 (抄)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

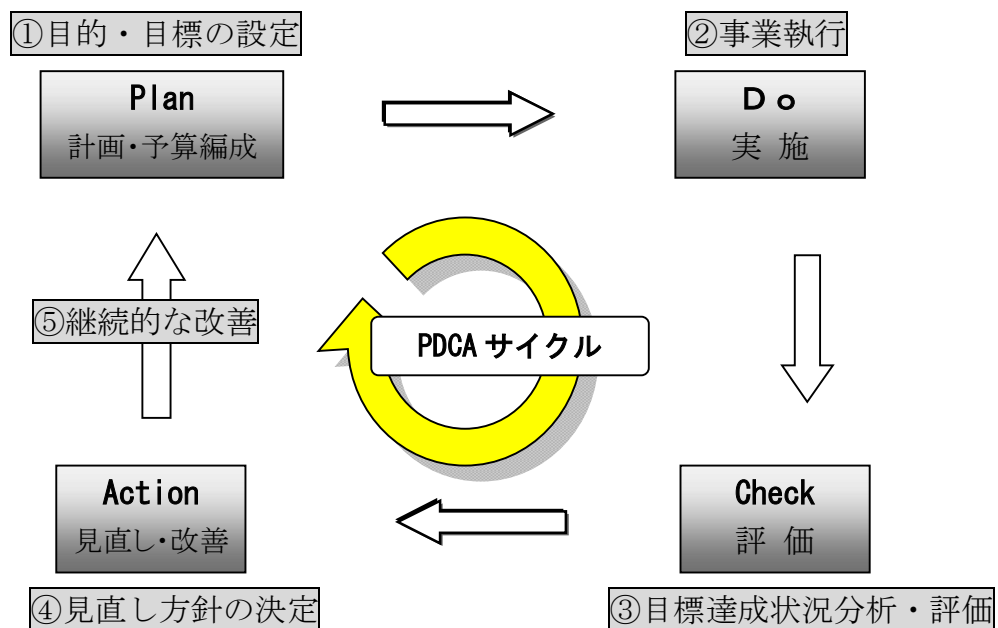
ii 府中市教育委員会における点検・評価の取組について

1 事務事業評価とは

事務事業評価は、事業を実施している所管課が事務事業の現状を把握し、認識した上で、目的を達成するために解決すべき課題を発見し、具体的な改善につなげていく取組である。

その目的は、これまで「計画し、予算を確保し、事業を執行する」ことで終わり、「執行した結果を評価し、次の計画に反映させる」ことがおろそかになりがちであった行政のサイクルに評価を導入し、PDCA（Plan計画－Do実施－Check評価－Action改善）という経営のマネジメントサイクルを確立することにより、計画の有効性と実施の効率性の向上を図ることにある。

事務事業評価制度を導入することにより、事業所管課が事業の成果を組織的、定期的及び客観的に見直し、データに基づく改革・改善を行いやすくなるという効果が期待できる。



2 制度の目的

(1) 成果重視の行政運営

成果重視を基本に事業を必要性、有効性及び効率性などの観点から評価を行い、効果的な行政運営を進める。

(2) マネジメントサイクルの確立

教育に係る実施計画等に基づいて事業を実施するだけでなく、評価、検証し、改善を行うことによって事業の効果を高める、いわゆるマネジメントサイクル（Plan計画－Do実施－Check評価－Action改善）を確立し、限られた財源や人員の有効活用を図る。また、これにより、職員の意識改革に努める。

- (3) 市民に対する説明責任の向上
事業の評価結果を市民に公表することにより、行政の透明性を高め、説明責任の向上を図る。
- 3 点検・評価の対象となる事業
第5次府中市長期総合計画の事業で、教育委員会の主要な事業を対象として行った事業について点検・評価の対象とする。
- 4 対象となる期間
令和4年度とする。
- 5 点検・評価の実施方法
 - (1) 教育委員会における点検・評価
事業の担当課が自己評価する1次評価と教育委員会全体として総合的に評価する2次評価の2段階で実施する。
 - (2) 学識経験を有する者の知見の活用
評価の客観性を確保するため、外部の有識者による評価を行う。
学識経験を有する者として、元府中市教育委員会教育委員 松尾紀美氏に御意見をいただく。
- 6 評価方法
事業の執行結果について、活動指標、成果指標、事業コストを用いて「目的妥当性」、「有効性」、「効率性」及び「公平性」の観点から評価を行い、今後の事業の展開方向を判断する。
- 7 点検・評価結果の公表など
市教育委員会における点検・評価終了後、その結果を取りまとめた報告書を議会へ提出するとともに、ホームページへ掲載する。

II 教育委員会の活動状況

i 教育委員について

本市教育委員会は、人格が高潔で教育、学術及び文化に関し識見を有するものの中から、市長が市議会の同意を得て任命した5人の教育委員により構成されている。平成27年4月1日施行の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により教育委員会制度の抜本的な改革が行われ、平成27年10月1日に教育委員長と教育長を一本化した新教育長を設置し、活動している。

令和5年3月31日現在

職名	氏名	任期	
教育長	荻野雅裕	令和3年10月3日～ 令和6年10月2日	1期目
教育長職務代理	高橋良昌	令和2年12月19日～ 令和6年12月18日	2期目
委員	和知啓子	令和3年10月1日～ 令和7年9月30日	2期目
委員	藤井美砂緒	令和元年7月3日～ 令和5年7月2日	1期目
委員	森山直洋	令和4年12月19日～ 令和8年12月18日	1期目

ii 教育委員会会議の開催状況について

定例会、臨時会など令和4年度における本市教育委員会の主な活動状況は、次のとおりである。

開催日	出席 委員数	件 名
令和4年4月25日	5人	・府中市社会教育委員の委嘱について
令和4年5月27日	5人	・府中市社会教育委員の委嘱について
令和4年6月2日	4人	・令和4年度府中市一般会計補正予算（第3号）について（教育委員会の所掌に係るものに限る。） ・府中市立学校端末通信料等徴収に関する規則の一部改正について
令和4年6月30日	5人	・府中市社会教育委員の委嘱について ・府中市立図書館協議会委員の委嘱について ・府中市学校給食センター運営協議会委員の任命について
令和4年7月20日	4人	・令和5年度府中市立学校で使用する教科用図書の採択に係る府中市教育委員会における採択基本方針について
令和4年8月22日	4人	・府中市いじめ防止対策推進協議会規則の一部改正について ・令和5年度使用教科用図書のうち特別支援学級において使用する教科用図書の採択について
令和4年8月25日	5人	・府中市職員の育児休業等に関する条例の一部改正について ・令和3年度府中市一般会計歳入歳出決算認定について（教育委員会の所掌に係るものに限る。） ・令和4年度府中市一般会計補正予算（第4号）について（教育委員会の所掌に係るものに限る。）
令和4年9月27日	3人	・府中市社会教育委員の委嘱について
令和4年11月24日	5人	・府中市個人情報の保護に関する法律施行条例の制定について ・府中市個人情報保護・情報公開審査会条例の制定について ・地方公務員法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について ・府中市一般職の職員の給与に関する条例等の一部改正について

		<ul style="list-style-type: none"> ・府中市第1号会計年度任用職員の報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例及び府中市第2号会計年度任用職員の給与に関する条例の一部改正について ・府中市職員に対する退職手当に関する条例の一部改正について ・令和4年度府中市一般会計補正予算（第6号）について（教育委員会の所掌に係るものに限る。）
令和5年1月26日	5人	<ul style="list-style-type: none"> ・学校長の任免の内申について
令和5年2月16日	4人	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度府中市一般会計予算について（教育委員会の所掌に係るものに限る。） ・府中市債権管理条例の一部改正について（教育委員会の所掌に係るものに限る。） ・府中市道路占用料徴収条例の一部改正について（教育委員会の所掌に係るものに限る。） ・令和4年度府中市一般会計補正予算（第7号）について（教育委員会の所掌に係るものに限る。）
令和5年3月14日	5人	<ul style="list-style-type: none"> ・学校長の任免の内申について
令和5年3月17日	5人	<ul style="list-style-type: none"> ・部課長等の任免について
令和5年3月24日	5人	<ul style="list-style-type: none"> ・府中市教育支援センター設置規則の制定について ・府中市教育委員会外国青年就業規則の全部改正について ・府中市公民館長の任命について

Ⅲ 事業の点検・評価の結果

[結果一覧表]

i 教育政策課関係

事業名	1次評価	2次評価	備考
放課後子供教室の充実	事業改善	事業改善	
地産地消の取組	現状維持	現状維持	
歴史的価値を持つ建物の観光活用に向けた整備	目的拡大	目的拡大	
地域の教育力の向上	事業改善	事業改善	
上下高校の魅力開発支援	事業改善	事業改善	
備後国府史跡保存・活用事業	目的拡大	目的拡大	

ii 学校教育課関係

事業名	1次評価	2次評価	備考
府中市版「教育課程の特例カリキュラム」の作成・実施	事業改善	事業改善	
学校内軽食ブース設置等学びの環境整備	事業改善	事業改善	
特別支援教育・教育支援員の充実	事業改善	事業改善	
コミュニティ・スクールの推進	事業改善	事業改善	
小中一貫教育	事業改善	事業改善	
GIGA スクールネットワーク推進	事業改善	事業改善	
特別教室等空調設備整備事業	事業改善	事業改善	
放課後ラーニング・サポート事業	事業改善	事業改善	

i 教育政策課関係

放課後子供教室の充実

1 事業の概要

安全・安心な子どもたちの居場所（活動拠点）を設け、地域の大人を協働活動サポーターとして配置し、放課後におけるスポーツや文化活動などのさまざまな体験活動や地域住民との交流活動を実施する。

2 事業の内容

- (1) 対象 希望する小学生
- (2) 目的 スポーツや文化活動等様々な体験活動や地域住民との交流活動という体験をとおして、放課後の安全な居場所を提供する。
- (3) 手段 スポーツ活動・文化活動（季節の行事など）
- (4) 今後の課題
協働活動サポーターの確保及び活動内容や参加者の拡大
- (5) 事業費(人件費含む) 1, 197千円

3 令和4年度における取組状況

指標名	実績	指標名の説明
わくわく子ども教室実施個所数	6か所	実施個所数
わくわく子ども教室参加人数	延べ747人	参加人数
わくわく子ども教室開催回数	148回	開催回数

4 評価結果指摘事項

(事業改善)

公民館の機能を生かした主催事業として、公民館から世代間交流を展開できる生涯学習の学びの場として発展させ、実施内容の充実を図っていく。

地産地消の取組

1 事業の概要

学校給食へ地元産の野菜を使用することにより、地場産品の普及を図るとともに地元農産物への認識を深める。

2 事業の内容

- (1) 対象 市内全小・中・義務教育学校児童生徒
- (2) 目的 地元農産物を理解するとともに地元生産者への感謝の気持ちへとつなげる
- (3) 手段 学校給食へその時期毎に地元で収穫する米野菜を地元 J A 福山市（府中グリーンセンター）及び J A 庄原（上下営農センター）等から納入して使用する。
- (4) 今後の課題
生産者に対する理解を深めるとともに地元食材さらには食への関心につなげる。
- (5) 事業費(人件費含む) 19,600千円

3 令和4年度における取組状況

指標名	実績	指標名の説明
地元農産物への理解	2,800人	給食喫食児童生徒数
地産地消率	22.9%	学校給食全体への市内食品の利用率
地元産献立の家庭への周知	12回	毎月1回 郷土料理や地元野菜の紹介・レシピ紹介

4 評価結果指摘事項

(現状維持)

地産地消の取組を継続し、地域の食材を活用した生産者等との食育も視野に入れながら、子供たちのみならず、市民や保護者にも学校給食を知ってもらう取組を充実させる。

歴史的価値を持つ建物の観光活用に向けた整備

1 事業の概要

市域に存在する歴史的・文化的・景観的に価値のある建築物等(翁座・恋しき・旧芦品郡役所庁舎など)を調査し、歴史的・文化的価値を明らかにすることで、歴史的価値の保存と、“府中ブランド”資源・施設として観光振興に資する活用の両立を可能にし、本市の観光・交流人口の拡大を図るとともに、郷土への誇りの醸成や中心市街地の賑わいの創出を図る。

2 事業の内容

- (1) 対象 市民
- (2) 目的 市域に存在する歴史的・文化的・景観的に価値のある建築物について、歴史的価値の保存と効果的な活用の両立を図り、観光振興および郷土への誇りの醸成や賑わいを創出する。
- (3) 手段 歴史的建築物の活用に向けた条例整備に向けての調整
翁座及び恋しきの保存活用計画策定（建物調査、耐震診断の実施等）
- (4) 今後の課題
 - ア 翁座改修事業のスケジュールに合わせて、文化財保護条例の改正を行う。
 - イ 条例改正後、翁座及び恋しきについて公共公開施設として活用するため、関係機関及び関係課と連携する。
 - ウ 上下協会及び恋しきの未登録物件を登録申請する。
- (5) 事業費(人件費含む) 16,648千円

3 令和4年度における取組状況

指標名	実績	指標名の説明
翁座・恋しき保存活用計画策定	100%	翁座・恋しき保存活用計画の策定
文化財保護条例策定の進捗	75%	策定にかかる県建築課、県教委への情報共有、意見聴取及び専門家への意見聴取など条例制定に向けての進捗
旧芦品郡役所庁舎にかかる応急的な修理の進捗	30%	緊急の修繕等が必要な場合、対応する。
歴史的建築物保存活用条例制定	75%	条例制定に係る方向性の決定

4 評価結果指摘事項

(目的拡大)

先行事例（適用除外）がない中で、計画策定し、市で共有するところまでできたことは評価できる。市民に分かりやすく、見えやすくする計画に期待したい。

地域の教育力の向上

1 事業の概要

公民館が地域のコーディネーターとなり、地域全体で子供たちの教育に参画し、そのプロセスで地域の人材が活躍する地域学校協働活動を促進させ、地域の人口や地理的条件に関わらず、ICTの活用や公民館の連携により学習機会を作り出すため、活動の中心となる職員を配置し、公民館活動の底上げを図る。

2 事業の内容

- (1) 対象 市民、公民館職員、公民館
- (2) 目的 公民館が保有する「学びの機能」と「集いの機能」の特性を融合強化し、地域の教育力の向上を図るため、学校教育との接点を強化し、地域住民による協働活動の拠点機能を高める。公民館が地域とのコーディネーターとなり、地域全体で子供たちの教育に参画し、そのプロセスで地域人材が活躍する地域学校協働活動を促進させる。
- (3) 手段 すべての公民館に活動の中心となる職員の配置
市で一の運営審議会を設置
コミュニティ・スクール（CS）と一体的に機能する取組の充実
地域学校協働活動の意義・意味を地域学校家庭で共有し、府中市学びフェスタ等においてつながりづくり
- (4) 今後の課題
ア 公民館職員の研修・研鑽の継続と、公民館活動を支える地域住民の発掘・育成するための企画、活動の推進
イ CSと連携させつつ、公民館が地域のコーディネーターとなる活動の推進及び地域課題の解決につながる取組の具体化
- (5) 事業費(人件費含む) 37,390千円

3 令和4年度における取組状況

指標名	実績	指標名の説明
研修の回数	8回	参加した研修の数
研修の参加者数	82人	研修に参加した職員数(のべ人数)
CSフォーラムへの参加者数	14人	

4 評価結果指摘事項

(事業改善)

インターネット環境が整備されたことにより、新たな学習機会の提供や学びの要素を含んだ活動ができはじめている。地域の現状や課題を踏まえ、地域・学校・家庭と連携や情報共有を行い、地域の現状、課題の解決につながる取組を具体化し、市全体で学びを通じた地域づくりを展開していく必要がある。また公民館の価値・特色を明確にして、市民が受講したい講座の改革を推進していく。

上下高校の魅力開発と支援

1 事業の概要

地域に欠かせない高校の存続のため、高校の魅力をつくり、高めることで、市内はもちろん市外、県外からも選ばれる高校となることを目指す。天領あやめ塾において生徒の学力を向上させる場や地域の魅力づくりを実践的に学ぶ場を設ける。

2 事業の内容

(1) 対象 (進学コース) 上下高校生を対象に、英語・英会話に力を入れた進学・進路支援を行う。

(地域魅力づくりコース) 小中高生

(2) 目的 上下高校の生徒数が減少している中、地域に欠かせない高校の存続のため、高校の魅力をつくり、高めることで、市内はもちろん市外、県外からも選ばれる高校となることを目指す。

(3) 手段 (進学コース) 上下高校 200 年の会に業務委託し、公営塾「天領あやめ塾進学コース」を運営する。

(地域魅力づくりコース) 町歩き、座学、講演会を実施。様々な課題を知り、課題解決に必要な具体的手法を模索。天領上下まちづくり協議会に業務委託し、公営塾「天領あやめ塾地域魅力づくりコース」を運営する。

(4) 今後の課題

上下高校の魅力であることをしっかり発信し、上下高校の魅力の一つとして周知していく。また、卒業後の希望進路実現のために必要な学習を積み重ねる環境を提供することによる高校の魅力づくりに寄与する。

(5) 事業費(人件費含む) 1, 044 千円

3 令和4年度における取組状況

指標名	実績	指標名の説明
受講生の数	2人	天領あやめ塾進学コース受講生の数
小中校生の参加者数	8人	地域魅力づくりコース
予備校講師による講演	5回	
予備校講師による講演の受講数	185人	のべ人数

4 評価結果指摘事項

(事業改善)

進学コースについては、塾生の希望進路の実現に向けた学習を実施し、より多様な進路に対応できる体制を継続する。地域魅力づくりコースについては、上下高校の生徒が地域の課題や魅力を発信する機会を作ること、参画を促すことで実践的に学ぶ場を展開していくため、事業全体の見直しを進める。

備後国府史跡保存・活用事業

1 事業の概要

“府中市の原点”というべき古代都市遺跡である国史跡「備後国府跡」を保存・活用することを目的とする。整備基本計画に基づいて史跡公園を整備する。目的達成によって、市民の地域愛やシビックプライドの醸成につなげる。

2 事業の内容

- (1) 対象 市民、市域外からの来訪者
- (2) 目的 市民の文化的環境の向上を目指し、郷土の誇りと愛着を育む
- (3) 手段 ①史跡指定地用地交渉
②発掘調査・調査報告書作成・指導委員会開催・史跡現状変更対応
③歴史フォーラム等普及啓発事業開催とパンフレット作成
④整備基本計画策定作業及び計画書の刊行（2年間のうちの2年目）
- (4) 今後の課題
 - ア 史跡備後国府跡の用地取得を計画的に進め、所要の史跡公園等の整備につなげる
 - イ 備後国府国庁域の確定ほか、関連遺跡の継続的な発掘調査、特に史跡追加指定のための報告書の作成刊行
 - ウ 史跡備後国府跡を中心とする文化財の普及啓発活動のニーズ調査を実施しながら、継続的に取り組む
 - エ 史跡備後国府跡の整備基本計画策定後、ツジ地区の令和9年度の史跡公園整備完了に向けて、整備基本計画、実施設計、整備工事の計画で実行予定
- (5) 事業費(人件費含む) 43,955千円

3 令和4年度における取組状況

指標名	実績	指標名の説明
試掘、確認調査の件数	7件	備後国府跡を確認するために実施した発掘調査の件数
市民等における認知度 (フォーラム・説明会参加者数)	213人	調査成果を公開や講演会、体験行事等の広報普及する活動の実施による、市民等における認知度
事業進捗状況	30%	史跡公園整備・調査継続等の達成率

4 評価結果指摘事項

(目的拡大)

引き続き確認調査と調査研究を進めるとともに、策定された「整備基本計画」をもとに、史跡整備が庁内、地域、学校等、親しまれ活用されるものになるよう取組を進める。

ii 学校教育課関係

府中市版「教育課程の特例カリキュラム」の作成・実施

1 事業の概要

学習指導要領が示す、「言語能力」の育成を目指し、「教育課程の特例」を生かしてカリキュラムを編成する。

2 事業の内容

- (1) 対象 ①府中市立学校全教職員
②ことば探究科推進リーダー等（校長・担当教諭）
- (2) 目的 ①令和5年度にすべての学年のカリキュラムが完成するため、府中市立学校小中一貫教科（ことば探究科）学習指導解説を整理し製本化する。
②ことば探究科推進リーダーが学習指導解説等の作成等に関わることで指導力アップを図る。
③学習指導解説とセットで授業動画を充実させる。
- (3) 手段 ①教育課程研究センターを中心に効果検証を行うとともに、校長研修会等で自校での「ことば探究科」の積極的な公開や、公開授業への積極的な参加ができる校内体制の充実を啓発する。
②「府中市ことば探究科推進協議会」で各校の取組の交流や学習指導解説の作成を通して各自の指導力向上を図る。
③質の高い授業を全ての教職員が視聴できるようコンテンツを充実させる。
- (4) 今後の課題
令和5年度にすべての学年のカリキュラムが完成し完全実施になるため、ことば探究科の質の向上と他の教科等との往還を充実させる。
- (5) 事業費(人件費含む) 5, 271円

3 令和4年度における取組状況

指標名	実績	指標名の説明
リーダー育成研修	3回	言語技術教育に関する研修の受講
推進協議会の開催	6回	ことば探究科の充実を図る。
カリキュラムの作成	9本	令和4年度のカリキュラム作成
指導案の作成	230本	令和4年度のカリキュラムに沿った学習指導案を作成

4 評価結果指摘事項

(事業改善)

児童生徒の変容や成長など成果を図る指標が必要である。先進性を高める取組を充実させる。

学校内軽食ブース設置等学びの環境整備

1 事業の概要

教育的な知見から朝食摂取の自覚と自立を促す事業を展開するため、学習に向かう環境を整えるための軽食提供ブースを校内に設置する。

2 事業の内容

- (1) 対象 各中学校及び義務教育学校後期課程の対象生徒
- (2) 目的 朝食の提供といった支援策に抛らず、「家庭で朝食を食べてくる児童生徒の自立を促す基盤づくり」を通じた学習環境の構築による学力獲得意欲や健康管理意識を高めていく。
- (3) 手段 気軽さや負担の少なさを考慮したイートインコーナーを設置し、自ら軽食摂取を選択できるブースを利用することで、「朝食を摂取した方が、午前中の授業意欲が維持できた」といった実感を児童生徒に持たせ、学力獲得意欲を高める。
- (4) 今後の課題
近年、児童生徒の朝食欠食が学習状況に影響するといった課題が報告される中、府中市の中学生の朝食摂取状況は全国・全県と比較して低位な傾向があるため、来年度は実施日を工夫し、より一層、朝食の必要性等に気づき、自身のコンディショニングを高めるための取組にしていく必要がある。
- (5) 事業費(人件費含む) 1, 196千円

3 令和4年度における取組状況

指標名	実績	指標名の説明
実施校	6校	各中学校及び義務教育学校後期課程の対象生徒
利用者数(延べ人数)	3,149人	学校内軽食ブース利用者数
やる気と集中力の向上	88.3%	アンケート調査より、「やる気と集中力が高まったか。」の設問に肯定的評価を行った生徒の割合
積極性	88.2%	アンケート調査より、「やる気と集中力が高まったか。」の設問に肯定的評価を行った生徒の割合

4 評価結果指摘事項

(事業改善)

学習意欲や学習面での効果を検証し、エビデンスに基づいた指導により、児童生徒の自律を促す取組につなげていくことを期待する。

特別支援教育・教育支援員の充実

1 事業の概要

生活上または学習上または身体上の支援が必要な児童生徒に対して、その介助を行うことを通して、一人一人の可能性とチャンスを広げる教育環境を担保する。

2 事業の内容

- (1) 対象 発達障害を抱える児童生徒
生活上または学習上の支援が必要な児童生徒
医療的ケア等が必要な児童生徒
- (2) 目的 適切な支援を届けることにより、府中市立学校に在籍する全児童生徒の資質・能力を育む。
- (3) 手段 特別支援教育支援員の配置
医療的ケアを必要とする児童生徒に対する有資格専門員の配置
- (4) 今後の課題
特別支援教育支援員の人数を確保し、特別な配慮を要する児童生徒が安心して学校で学べる体制を整備する。
- (5) 事業費(人件費含む) 34,240千円

3 令和4年度における取組状況

指標名	実績	指標名の説明
特別支援教育支援員の人数	13人	令和3年から医療的ケア専門員2名配置
特別支援教育支援員研修	1回	特別支援教育支援員の具体的な支援に係る研修
特別支援教育支援員1人当たりの児童生徒数	36人	

4 評価結果指摘事項

(事業改善)

一人一人のニーズに合った特別な支援をするため、特別支援教育の研修の充実等支援の質と量を高めていく必要がある。

コミュニティ・スクールの推進

1 事業の概要

全国CS研究大会後のネクストステージとして、実践交流会「エクスカージョン」の定着と発展を目指し、学校と地域の学びをカフェでつなぐ場を校舎内に常設して、より広範な地域住民と子どもたちとの関わりを展開し、府中市教育への市民の関心と参画を促す。

2 事業の内容

- (1) 対象 ①府中市立学校児童生徒②地域保護者③府中市立学校教職員
- (2) 目的 ①目指す子供像の共有②地域社会の活性化とともに保護者の参画③教職員が求められる資質・能力の向上
- (3) 手段 ①学校運営協議会において、校長の学校経営方針に承認していただくとともに、地域学校保護者が協働して児童生徒を育てるために活動する。②CSフォーラムを開催することにより、府中市民及び教職員へ周知を図る。
- (4) 今後の課題 学校と地域が協働していく場の創設
- (5) 事業費(人件費含む) 1,697千円

3 令和4度における取組状況

指標名	実績	指標名の説明
学校運営協議会開催	51回	各学校が年間3～7回開催しており、全学校運営協議会へ教育委員会職員がオブザーバーとして参加。
CSフォーラムの開催	1回	CSマイスターを指導助言者として招聘し、全国発信する。
地域行事に参加している肯定的回答【全国学力・学習状況調査質問紙】	53%	中学校3年生・義務教育学校9年生の肯定的回答割合
自分にはよいところがあると思いますか。【全国学力・学習状況調査質問紙】	83.9%	中学校3年生・義務教育学校9年生の肯定的回答割合
CSフォーラム参加者数	300人	参集とオンラインを組み合わせたハイブリッドで開催

4 評価結果指摘事項

(事業改善)

児童生徒が主体(企画者)として参画し、地域の人も参画し、地域が活性化する活動やこれまで培った力を発揮できる場を展開するとともに広域的なCS活動の醸成を図る。

小中一貫教育

1 事業の概要

小中一貫教育とコミュニティ・スクールを両輪に、9年間を通して、全ての子どもたちの可能性を最大限に伸ばすことのできる義務教育の質の向上を図る。

2 事業の内容

- (1) 対象 児童生徒・市立学校教職員
- (2) 目的 児童生徒が自律した学び手となり、自ら獲得した力で未来に挑戦し、多様な他者と協働して新たな価値を創造するための「学力」及び「学びに向かう意欲」の向上を図り、学力向上を通じた未来を拓く力を育てる。
- (3) 手段 各校、各学園における授業改善及び学園の特色を活かした取組を充実させる。
- (4) 今後の課題
 - ア 教職員が授業改善を行うための研修の充実が急務である。
 - イ 小中一貫教育の成果検証方法の確立
- (5) 事業費(人件費含む) 4,502千円

3 令和4年度における取組状況

指標名	実績	指標名の説明
小中一貫教育研究大会参加者(教職員・行政・一般)	246人	上下学園で参集及びオンラインでの開催
併設型小中学校の学園経営会議	24回	府南学園・上下学園においては、月1回校長が集まり、会議の開催
学校に行くのが楽しいですか【全国学力・学習状況調査質問紙】	82.7%	中学校3年生・義務教育学校9年生の肯定的回答割合
自分にはよいところがあると思いますか。【全国学力・学習状況調査質問紙】	83.9%	中学校3年生・義務教育学校9年生の肯定的回答割合
中学校及び義務教育学校後期課程の不登校生徒の割合	6.1%	

4 評価結果指摘事項

(事業改善)

エビデンスに基づいた個々の成長や学力定着状況を把握し、授業づくり・授業改善に生かすことを期待する。

G I G Aスクールネットワーク推進

1 事業の概要

Society5.0 時代（AI 等の技術革新が進む新時代）を生きていく子供たちにとって、「情報活用能力」等の育成は必須であり、その方策として ICT 機器を十分に活用した学びを実現していくための環境整備を行う。

2 事業の内容

(1) 対象

府中市立学校の児童生徒及び教職員

(2) 目的

児童生徒と向き合う時間を確保し、教職員の経験値だけでなく、データとエビデンスに基づいた個に応じた支援をし、児童生徒や保護者へ還元する。児童生徒に貸与した学習用端末の故障や破損に対しての保証をし、安心して使用できる環境を整備する。

(3) 手段

ア 統合型校務支援システムを導入し、業務の効率化を図る。

イ 動産保険に加入し、故障破損時に備える。

(4) 今後の課題

よりよい学習環境の整備及び ICT 機器の多様な活用を促進する。

(5) 事業費(人件費含む) 12,758千円

3 令和4年度における取組状況

指標名	実績	指標名の説明等
校内LANの整備	100%	
統合型校務支援システム導入	100%	システム導入率
動産総合保険加入	100%	加入率

4 評価結果指摘事項

(事業改善)

学校におけるICTの活用を拡大していく取組を推進する。

学校施設の耐震化・エアコン整備

1 事業の概要

学校に「未来の学び」を創出するための「計画的な機能向上」という視点に位置付けて学校施設の整備改修を進める。

2 事業の内容

- (1) 対象 学校施設
- (2) 目的 安全安心で最新の学びの環境を整えるために特別教室等に空調設備を整備する。
- (3) 手段 令和5年10月までに42箇所すべての教室等に空調を設置する。
- (4) 今後の課題
令和5年度に繰り越し。令和5年10月までに42箇所すべての教室等に空調を設置するための整備計画の見直し
- (5) 事業費(人件費含む) 174,153千円

3 令和4年度における取組状況

指標名	実績	指標名の説明等
空調設置校	8校	空調未設置教室がある学校
空調設置教室	42教室	空調未設置の教室数

4 評価結果指摘事項

(事業改善)

当初の整備計画より遅延する中で、早期に42箇所すべての教室に設置できたことは評価できる。

放課後ラーニング・サポート事業

1 事業の概要

児童に学ぶ時間と空間を提供することを通して、児童の「学習習慣の定着」や「学力の向上」を目指し、学習意欲の発揮と醸成を通して、生涯にわたる主体的な学び手を育成する。

2 事業の内容

- (1) 対象 小学校及び義務教育学校前期課程に在籍する児童
- (2) 目的 学習意欲と学力を向上させ、主体的に学ぼうとする児童を育成する。
「学習意欲が高まった児童」70%以上を目指す。
- (3) 手段
宿題の見守り及びサポート、個々の児童の力に応じた学習サポート、児童自身が自分の挑戦したい学びを選択した場合の見守り及びサポート
- (4) 今後の課題
 - ア 主体的に学ぶ子供を増やしていくためには、継続して放課後ラーニング・サポート（以下「らんさぼ」という。）を開設するとともに、取組内容も発展させていく必要がある。
 - イ よりよい学びの場を構築するには、らんさぼルームの環境（PC・プリンターの設置、インターネット接続）を充実させる必要がある。
 - ウ 安定して運営できる体制を構築していくために、運営責任者、サポーターの確保を継続する必要がある。
- (5) 事業費(人件費含む) 7,153千円

3 令和4年度における取組状況

指標名	実績	指標名の説明等
サポーター配置数	72人	
「らんさぼが好き」と回答した児童の割合	96%	
「勉強をやる気になってきている」と回答する児童の割合 70%以上テストの点数	70.6%	

4 評価結果指摘事項

(事業改善)

児童が自ら選択して学習できる場として、子どもの選択肢を広げるため、らんさぼの運営ノウハウを活かし、プログラミング講座等、発展的な取組についても検討していただきたい。

新型コロナウイルス感染症についてまだまだ収束が見通せない中、この2年間ずっと学校生活においても日常生活においてもコロナと共存し、様々な教育活動を進められました。そして新型コロナウイルス感染症については、1月27日に感染症対策の基本的対処方針が改定され、令和5年5月8日から、法律上の2類から5類感染症に位置づけることとなりました。新型コロナウイルス感染症により、教育行政また子どもたちの学校生活等における様々な活動が大きな影響を受けましたが、そういった状況の中においても、いろいろなやり方を模索し、ICT環境の整備、ICTを活用した取組の広がり、学校、家庭、地域が集いともに関わりあう学び等進めた取組を生かし、さらに様々な活動へと展開していくことを期待するものです。

1 学校教育の充実

府中市の教育は、小中一貫教育とコミュニティ・スクールを教育の柱として、GIGAスクールネットワークの推進、新教科「ことば探究科」の創設、校内軽食ブースの設置、放課後ラーニング・サポート（らんさぼ）の設置など多様な教育施策を展開し、自らの可能性とチャンスを最大限に生かすことができるよう様々なチャレンジも進められています。

GIGAスクールネットワークの推進については、全ての子供たちにタブレット端末が配備され、日々の授業等での活用が日常的になってきています。より効果的に積極的に学びに活用し、力を伸ばしていく取組を期待します。

教育課程の特例を市内全校に適用させた新教科「ことば探究科」については、授業力向上のための研修会や公開授業の実施など各校の「ことば探究科」の授業の質を高めるとともに他の教科等の学びの中でも発揮できるよう取り組まれています。全ての学習の基盤となることばの力を引き続き、子供たちがしっかり身に付けることができるよう、さらなる研修と内容の充実に向けた取組を期待します。

また、児童が選んで参加でき、日々の学習を確認・定着させることができる「新しい学びの場所」として放課後の校内に「放課後ラーニング・サポート（らんさぼ）ルーム」が新たに開設されました。学力向上と学習意欲の維持向上を目指し、学びの選択肢も増やす取組を進めていただきたい。

そして、コミュニティ・スクールについては、CSフォーラムが開催され、各学校運営協議会での熟議の充実が図られています。学校だけでできないことがその地域の方に入っていただくことで広がり、子供たちの豊かな教育活動につながっていると感じます。各学校の特色・個性を生かしながら、継続的に意欲的な取組につながるよう進めてほしいと願います。

今年度、特別教室への空調設備の設置が完了しています。これにより校舎内のすべての教室に空調設備が整備されたこととなります。引き続き安全安心で最新の学習環境を児童生徒に提供できる教育基盤の整備を進めていただきたい。

2 生涯学習の推進

地域の人材が学校運営に関わり、取組を展開しているコミュニティ・スクールに地域の拠点施設である公民館が関わることで、学びを通じた地域づくり、子供たちの育成を推進し、社会教育及び生涯学習活動を充実させるため、公民館に活動の中心となる職員を配置されました。そして公民館の実施する講座をはじめ、困りごとや地域の課題解決につながる学びを進められています。また、公民館ごとに設置していた公民館運営審議会を市で一つとすることにより、市全体の公民館活動の方向性を共有する仕組みが整えられ、これによって全館のネットワークも強化され、生涯学習機能の全体的なレベルアップと内容の充実が図られています。

公民館の「つどう・まなぶ・つながる」という3つの機能を向上させ、小中学生も含む多くの市民が、活動しやすい、主体的に取り組める学びの場の整備・充実を引き続きお願いするとともに、各地域の公民館において、それぞれの地域の特徴を生かして展開されている公民館活動の価値や魅力を府中市全体で共有し広げていくことも期待したい。そして学校との協働活動の活性化を図り、地域における教育の充実を引き続き公民館が大きな役割を担っていくことを期待します。

3 その他

学校教育・生涯学習ともに一つ一つの課題に向き合い、新たなチャレンジにも積極的に取り組まれ、環境整備も整い、評価すべきものと思います。そして、環境が整った今だからこそ、次の段階として居心地の良い空間づくりを展開していただきたいと思います。教育委員在職中に市内外の学校訪問をしましたが、建物の外観、材質、色、照明等で醸し出される空気が違います。毎日通うのが苦ではない、むしろわくわくするような環境づくりを期待します。取組についても確かに一つ一つ不可欠な取組ではありますが、子供たちや教職員が疲弊する枷になっていないか等調整をしていただきたいと思います。

教育委員会の舵取りによって、教育の更なる発展を期待すると同時に、学校や公民館等が市民の笑顔であふれる場所となるよう祈念します。

長期化するコロナ禍においてもコロナとうまく付き合いながら、できることをできる限り行うという姿勢を大切に様々なチャレンジを行い、教育活動を進めている。

令和4年度の評価については、第5次府中市長期総合計画の事業で、教育委員会の主要な14事業について点検・評価を行い、継続しつつ、実施事業をさらに展開させるべく業務改善の評価が多くみられた。

人々の価値観が大きく変化し、多様化していく中において、全ての子供たちの可能性を引き出し、多様性に対応できる環境へともっと変わっていくために、子ども一人一人が自ら考え行動できる力をつけ、自分たちが考える機会を増やしていく教育を進めていくとともに、全ての人自分らしく幸せを感じられ、生き生きと躍動することができるよう、より効果的、創造的な学びを展開していきたい。そして充実した学校教育、必要とされる社会教育の実施に向け、積極的な取組を推進していく。